

森記念財団（東京・港）のシンクタンク、都市戦略研究所が18日まとめた2016年版「世界の都市総合力ランキング」では東京がパリを抜いて初めて3位になった。訪日観光客の急増、円安による物価や住居費の割安感が順位を押し上げた。ただ外的要因が強い風になったうえ、交通アクセスや環境では海外の都市になお後れを取っている。20年東京五輪に向けた課題が改めて浮き彫りになった形だ。

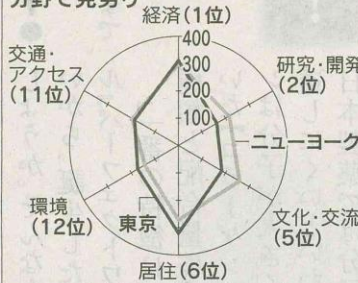
世界「都市力」東京3位に浮上 強みと課題浮き彫り

2008年の調査開始以来初の3位に

	2015年	16年
1位	ロンドン	ロンドン
2位	ニューヨーク	ニューヨーク
3位	パリ	東京
4位	東京	パリ
5位	シンガポール	シンガポール

(注)総合ランキング

2位のニューヨークには「文化・交流」分野で見劣り



外国人観光客らでにぎわう浅草

○訪問者・国際会議は増／●タクシー運賃割高

化し、総合評価した。都内では同日記者会見した竹中平蔵所長（東洋大学教授）は結果について「東京はポテンシャルを持ち、構造改革を通じた変化は間違いなく含まれて

いるがまだスタート。これから訪問者数や国際会議の開催件数が増えて得点を伸ばした。東京五輪年11月の同時テロの影響を受けた面がある。経済は法人税率の引き下げが寄与して首位、研究・開発も2位と昨年と

同じ順位を保った。ただビジネス環境や人材の集積など一部で得点を落とし、他の都市の追い上げが目立つ。昨年の15位から6位に順位を上げた居住では賃貸住宅の平均賃料や物価水準が相対的に割安と評価されたが、為替相場の円安という外的要因が押し上げた形だ。ベスト10に入らなかったのが環境（12位）と交通・アクセス（11位）。環境では海外の主要都市に比べて再生可能エネルギー活用の割合がまだ相対的に低い。交通アクセスでは国際線旅客数や都市心から空港までの所要時間が改善した。ただ大阪府が22位、福岡市が36位だった。